

～デジタル活用による世界遺産平泉観光の価値向上～

令和5年度地域政策研究センター 地域協働研究【ステージⅠ】採択課題

課題名：ガイドシステムの周遊ログを活用した来訪者調査手法の試行

研究代表者：ソフトウェア情報学部 阿部昭博

課題提案者：平泉町

研究メンバー：千葉武裕（平泉町）

技術キーワード：デジタル化、広域観光連携、周遊分析、デジタルマーケティング

▼研究の概要（背景・目標）

＜背景＞デジタルデバイス等を活用しながら恒常的に観光客の動態データ収集できる仕組みの導入が課題となっている。

＜目的＞周遊実態の把握を可能とする新ガイドシステムを運用し、周遊ログを活用したデジタル来訪者調査手法を試行する。

▼研究の内容（方法・経過）

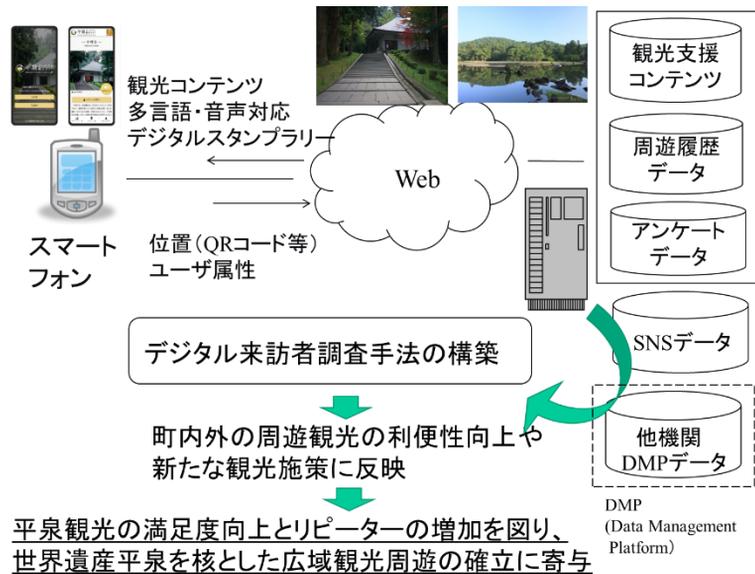
1. 声優による音声コンテンツ、QRスポット拡大などガイドシステムの機能拡充を図った。
2. 観光協会の協力のもと、スマートフォンを活用した周遊イベントを実施した。
3. 広域周遊への対応として、他機関が保有する広域周遊データの活用可能性を調査した。
4. 収集データ分析の効率化を図るため、支援ツールの在り方について検討した。

▼研究の成果（結論・考察）

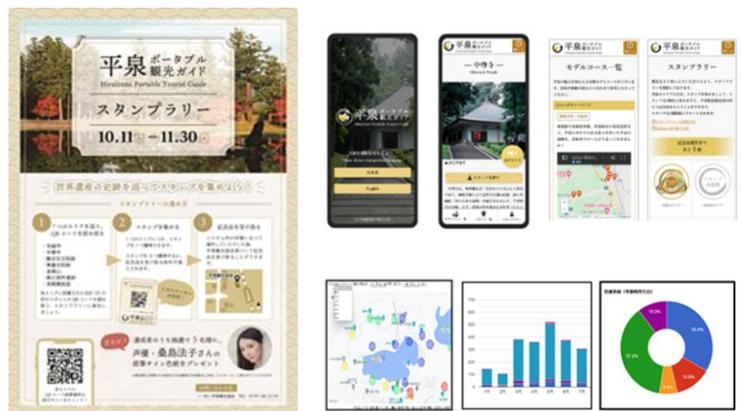
1. 来訪者調査手法については、観光振興計画の基本目標指標に対応したデータ収集方法や周遊イベントの周知方法について精査する余地が残っているものの、調査の手法として概ね目途が立った。
2. 残された課題としては、広域周遊データ活用、データ分析の効率化、持続可能な運用体制への移行などが挙げられる。

▼おわりに（まとめ・今後の展開）

1. 上記の成果を踏まえ、引き続き地域協働研究制度を用いて、周遊ログに基づく来訪者調査手法の活用を目指した取組みを進める予定である。
2. 観光DX推進に資する実践・実証的な研究を進めることで、平泉観光の満足度向上とリピーターの増加を図り、世界遺産平泉を核とした広域観光周遊の促進に寄与したい。



研究概念図



取り組みの概要